

運動発達支援プログラムについて

発達障害やその傾向のある幼児から青年に対して、運動面で気がかりな問題を明らかにし、解決していくための個別のプログラムを作成し実施しています。

◆相談事例

動きがぎこちない

整形外科や神経外科的に問題はないのに運動発達上の遅れが気になる

運動への意欲が極めて低い

身体的余暇スキルがかなり限定的である

※スポーツ種目のスキルや体力の向上は目的としていません。

◆プログラムの流れ

①初回面接→②アセスメント(運動面の状態把握)→③個別プログラムの作成→

④実施→⑤再アセスメント→(終了もしくは継続)

※アセスメントは初回面接の内容で実施の有無と種類を決めます。

※個別プログラムは必要に応じて小集団で実施する場合があります。

※頻度は月に1回の10回分を原則にしています。

※再アセスメントの結果をもとに継続か終了を検討します。

◆受付場所

筑波大学心理・発達教育相談室(当分の間、実施していません)

◆実施場所

教育相談室プレイルーム(当分の間、実施していません)

◆指導スタッフ

臨床発達心理士の資格を有する体育系教員(博士(教育学))と、その指導学生

筑波大学 体育系 澤江幸則

本プログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う相談室の方針に基づき、当分の間、実施しておりません(2020年11月10日現在)。

担当の澤江が関係している活動団体で「オンラインによる運動発達相談」を実施していますので、以下のHPをご参照ください。

はぴ家プロジェクト

検索

<https://www.hapieproject.com>

